



改正中庸新說

□ 12
276
1





改正中庸新說

口 12

206

口 12  
276  
1



門口 12  
子 2  
卷 1

改正中庸新說序

道之精以修身其緒餘以治國家其土苴以治天下  
快哉其言之也然詳內而略外貴己而賤物其非聖  
人之旨審矣程子曰天地萬物之理無獨必有對每  
中夜而思不知手之舞之足之踏之程子賢儒食前  
方丈侍妾數百必非所以為樂其他遠方朋來中四  
海而定天下如此之類多矣今乃置而不言專稱樂  
於此非見道之明講學之精豈能如此乎蓋仲尼之  
門其高足多匹夫也然問為政問治國比比皆是仲

明治廿五年十一月廿七日

森鴻次郎氏寄贈

卷目下



尼亦取行己有恥不辱君命者爲士之上等其止族  
黨稱孝弟者退居其下然則聖門之學豈隔閼內外  
輕重人已以爲道乎故大學說明德必以新民承之  
中庸說率性必以位育繼之嗚呼是吾儒教之所以  
大而能博也會津兩耕翁斥異端而闡正學平生以  
朱子忠臣自居其來江都挾所著書環謁名儒亦過  
聽詣余今又嫌朱說猶有染汚老禪者其位育節章  
句以於人已內外間猶有所偏重遂謂爲異端狂瀾  
生風爲述一書痛切言之謦謦諤諤欲爲其諍臣可

謂勤矣朱子之賢必不喜人之佞己則焉知其不欣  
然於九原之下邪讀者或誹以爲多憂過慮而翁不  
顧者有以乎哉嘉永七年後七月嶺南學人保岡孚  
元吉甫識















証出するに言半疑念を去りしに返る朱學に一定の位中庸修を尚の執

中八天を一本とす

程子の仁と回報の事、中庸後教義大學、依し愚解の學庸既、孝句の的

為ふ侍、治の唱味を方變もいづゆる裁若培之の志を以て、押上り、部仲

孝此程朱本体の説愈堅固大文にお取、一増ももう或やと事、原、治、育

愚解、程朱の以て、廣く世を以てし、志、度、志、形、以、望、言、若、子、程、若

何卒、以、熟、後、と、上、愚、存、心、治、遠、の、義、以、教、論、と、取、下、り、大、度、至、極、程、若

追、成、也、也、漸、當、代、之、義、中、と、も、世、と、も、未、嘗、有、の、康、居、也、と、文、化、大、に、お、取

中、と、も、是、は、聖、時、と、當、て、程、朱、と、も、老、佛、若、吳、學、と、の、是、非、形、此、辨、然、と、の

お、お、取、て、正、學、不、易、此、大、經、と、も、一、定、に、侍、て、以、更、に、以、の、事、の、時、を、以、り

り、や、一、念、に、お、り、至、る、無、の、寂、念、を、も、お、わ、せ、ん、矣、息、痛、歎、死、を、亦、存、若、後

忘却の、程、言、過、語、を、ら、し、し、此、心、亦、然、と、り、中、も、亦、亦、亦、大、先、是、と

朱、學、諸、先、哲、の、吳、學、并、編、と、も、此、様、い、と、も、彼、を、知、て、己、を、知、ら、る、の、端

も、多、分、可、き、や、と、事、を、信、じ、被、於、て、心、披、を、入、り、早、竟、今、以、朱

學、一、悔、を、ん、吳、學、も、亦、數、多、流、り、は、義、と、事、を、多、死、と、し

又、中、と、も、孝、句、八、天、命、の、性、國、有、を、る、治、徳、を、主、と、し、新、民、を、含、包、と、取、り、百

自、分、の、大、本、の、中、と、使、り、及、び、其、連、を、の、和、と、自、他、の、善、を、お、か、し、中、和、と、學

と、連、属、し、て、吾、性、情、の、徳、と、形、唯、一、己、の、身、上、に、及、ぶ、し、て、吾、身、を、夫、の、天、地、を

物、位、育、の、切、效、と、取、り、却、て、佛、氏、の、方、を、以、り、加、に、し、と、義、字、の、引、中、に、て

儒、教、の、極、を、中、庸、を、學、振、の、程、の、存、在、を、し、又、吳、學、者、は、吾、性、情、を、中、と、或

獨、善、の、心、性、學、を、佛、氏、に、移、お、取、り、と、甚、嫌、ひ、以、り、中、と、也、是、一、己、の、身、上







此節と承る後とおぼく受事等の事一己の身上を主として新法を益包  
 とする吾身分の方一途に片寄して大抵未發在中大本体理性隱微一  
 本修身の方一途にお承りし又受事共々多分切利事業に付き、由り  
 ら新法を主として一己の身上に於て、先づ他の方一途に片  
 寄して大抵已發時中道を困氣情費取を殊新法の方一途にお承りし  
 取をえより本体の世に説ゆ、未發大本の中お承りし、己未發連を  
 知り、己未發より振世し、由り指當り、事句を福善業とほ、識、廣く、事  
 民一統の位育に、了、中和極致の功效の、端、より、又、お承り、振、廣く、  
 且、按、中庸、を、事、を、以、大學、經、文、の、如、く、一、篇、の、体、要、幹、本、お、建、て、性、是、  
 教、を、以、三、徳、領、を、お、配、し、又、大學、八、條、目、の、意味、を、中庸、於、て、八、三、條、目、

約一處、修、之、之、謂、教、の、條、目、を、也、若、不可、須、更、離、之、の、修、身、の、事、を、  
 切、要、二、章、より、十、一、章、を、執、中、の、説、を、受、て、是、不可、離、の、存、表、者、事、の、為、  
 此、節、と、承、り、又、率、性、之、謂、道、の、條、目、に、大、本、連、を、二、の、新、法、に、承、り、切、要、十、  
 二、章、の、夫婦、より、和、合、して、齊、家、の、端、を、し、き、十五、章、の、妻、子、好、合、兄弟、  
 既、翁、父母、之、順、及び、十六、章、の、鬼神、説、を、以、齊、家、の、連、を、效、驗、を、承、り、  
 十七、章、より、二十、章、を、治、平、の、連、を、效、驗、を、承、り、又、於、大學、八、條、目、の、意、  
 味、に、中庸、の、二十、章、を、お、承、り、の、意、を、承、り、一、段、高、尚、に、承、り、二十、一、章、より、以下、八、  
 章、の、意、を、大、學、に、せ、し、修、身、新、法、を、承、り、保、守、して、其、止、至、善、の、切、要、解、釋、を、  
 承、り、又、於、大學、の、章、節、學、則、福、善、傳、  
 但、是、と、傳、承、の、大、旨、通、解、の、支、分、節、解、を、承、り、以、承、り、の、支、分、二、章、







其心之相印如印之泥如寒江月不與少差異也且叟既有所自得於二篇書錯綜縱橫之說豈說無不如其則當世豈更世一知己後世豈更無一友已斯其書可以未刻矣亦不可以終不刻矣雖然叟今茲生僅周甲則還鄉養病得愈後來又何難為乎哉叟聽此語也欣然一笑而去

嘉永甲寅菊有黃華月 乙子完後

會津兩耕翁奮乎市井之中以衛道為己任嘗著中庸說欲補苴朱子所未逮持焉而遊都門歷謁一時名家以質其說聞者或哂以為迂濶而翁確然自信不肯少屈其志壯矣抑翁之解經旨未曾拾古人之唾餘其所發明皆出乎獨得橫說豎說惟意所欲而於辨斥釋氏似是之非則尤致意焉其有功於斯道蓋不訾也輒近邊徼告警海防之議方殷於是縫掖之流各投時好莫不爭而談兵若夫聖經賢傳徃徃東之高閣不復省視當今之時矻矻窮經以衛道為己任如翁其人豈易得哉宜乎世之哂以為迂濶也



雖然孟軻氏不云乎入以事其父兄出以事其長上  
可使制挺以撻秦楚之堅甲利兵矣繇此觀之用兵  
制勝之本在於化民成俗化民成俗之本在於講經  
明道然則海防之要殆將在此而不在彼也世之哂  
以為迂濶於翁乎何技焉翁頃見示其說遂書此言  
于卷末而還之

嘉永甲寅良月水府森蔚識于江都礪川邸舍

此書以實其端開卷之初又為五則而後始為自計  
散語殆誠意未平而亦盡其端而後始為自計  
分三函持以首平而并之中又謂其意已出曾書中







